

都市再生整備計画 事後評価シート
守山市南部(第2期)地区

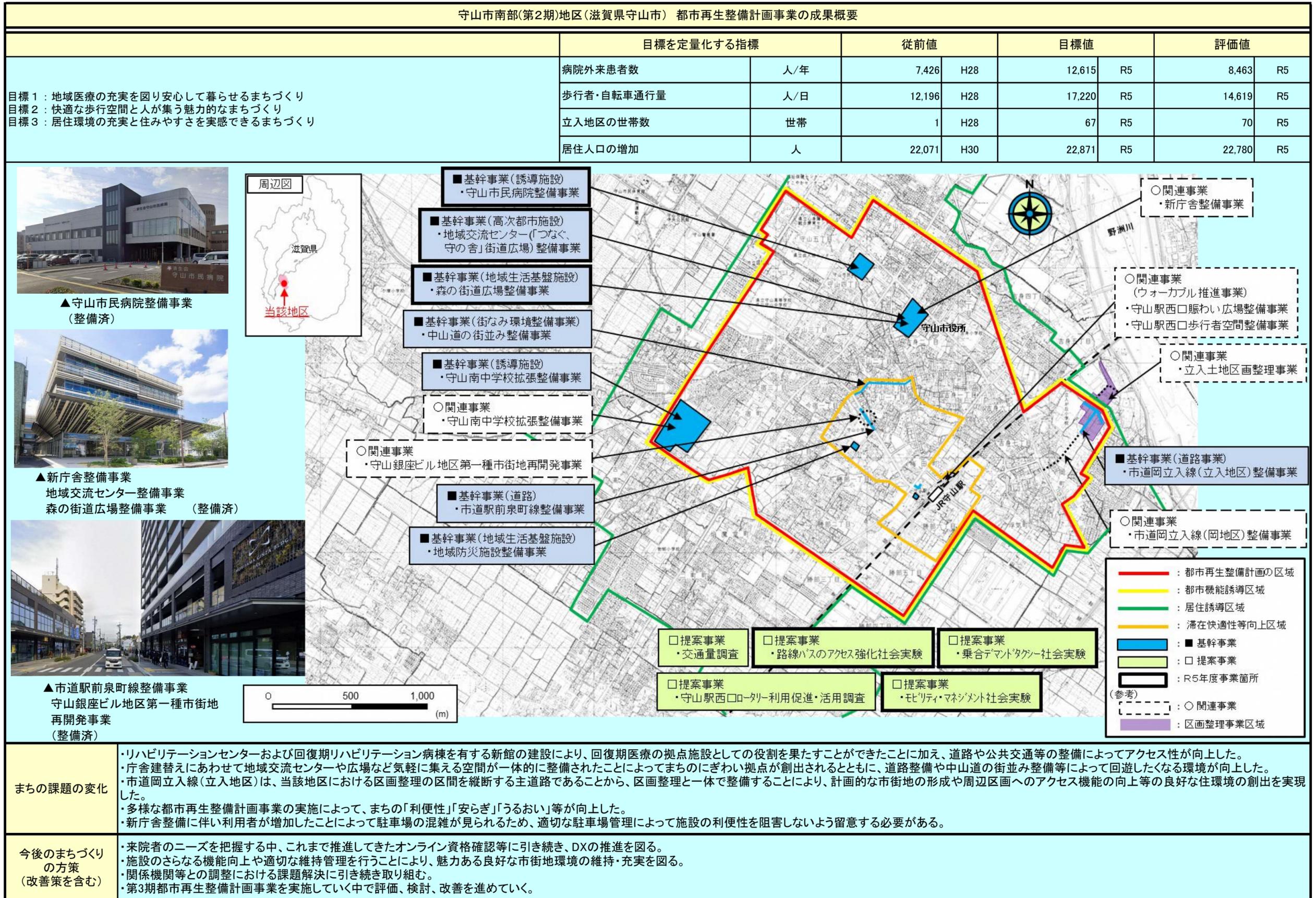
令和7年3月

滋賀県 守山市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	滋賀県	市町村名	守山市	地区名	守山市南部(第2期)地区			面積	314ha									
交付期間	平成30年度～令和5年度	事後評価実施時期	令和6年度	交付対象事業費	2,924百万円	国費率	0.5											
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(市道岡立入線(立入地区)、市道駅前泉町線) 中心拠点誘導施設(守山市民病院) 街なみ環境整備事業(中山道の街並み整備事業)															
		提案事業	-															
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(守山駅前広場)	関係機関等との調整がつかず、計画期間内における事業実施が困難になったため。				変更なし										
		提案事業	高質空間形成施設(吉身川整備)	関係機関等との調整がつかず、計画期間内における事業実施が困難になったため。				変更なし										
		提案事業	-	-				-										
	新たに追加した事業	基幹事業	高次都市施設 地域交流センター(「つなぐ、守の舎」街道広場)	整備計画の目標をさらなる高い水準で達成するため				指標(歩行者・自転車交通量)の目標数値の増加										
			地域生活基盤施設(地域防災施設、森の街道広場)	整備計画の目標をさらなる高い水準で達成するため				指標(歩行者・自転車交通量)の目標数値の増加										
		提案事業	誘導施設(守山南中学校)	整備計画の目標をさらなる高い水準で達成するため				指標(居住人口の増加)を追加										
			事業活用調査(交通量調査)	整備計画の目標をさらなる高い水準で達成するため				変更なし										
			事業活用調査(守山駅西口ロータリー利用促進・活用調査)	整備計画の目標をさらなる高い水準で達成するため				変更なし										
まちづくり活動推進事業(乗合デマンドタクシー社会実験)			整備計画の目標をさらなる高い水準で達成するため				指標(歩行者・自転車交通量)の目標数値の増加											
交付期間の変更	当初	平成30年度～令和4年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		一部事業の別事業での実施、工期延長。指標・数値目標への影響なし													
	変更	平成30年度～令和5年度																
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	病院外来患者数	人/年	従前値	7,426	基準年度	H28	目標値	12,615	R5	モニタリング	8,463	評価値	△	1年以内の達成見込み	あり	守山市民病院や守山駅西口周辺の整備によって病院の利便性やアクセス性が高まったものの、診療報酬改定に伴ってH31年4月より維持期・生活期のリハビリテーションが医療保険から介護保険へ完全移行されたことによる影響が大きいと考えられるため、目標値の達成には至らなかった。しかしながら、入院患者数は増加しており、これは来院者の利便性やアクセス性の向上が実現されたことによるものと考えられる。	令和7年10月頃
				目標年度	R5					なし	●							
	指標2	歩行者・自転車通行量	人/日	従前値	12,196	基準年度	H28	目標値	17,220	R5	モニタリング	14,619	評価値	△	1年以内の達成見込み	あり	市道駅前泉町線のバリアフリー化整備や守山駅西口歩行者空間整備事業の実施により安全・安心に歩ける環境が向上するとともに、中山道の街並み整備事業等による歩いてみたくなる環境づくり及び歩行者の回遊性向上が実現しまちの活性化に繋がったものの、目標値の達成には至らなかった。	令和7年10月頃
				目標年度	R5					なし	●							
	指標3	立入地区の世帯数	世帯	従前値	1	基準年度	H28	目標値	67	R5	モニタリング	70	評価値	○	1年以内の達成見込み	あり	立入地区の土地区画整理事業や道路事業等による基盤整備によって新たな居住地が創出されるとともに、新庁舎整備や地域交流センター、森の街道広場整備等によって魅力的な拠点施設が出来たこと、まちの顔となる守山駅西口整備や守山銀座ビルの再開発等によって生活の場としての魅力が高まったことから、目標値を達成することが出来た。	-
目標年度				R5					なし	-								
指標4	居住人口の増加	人	従前値	22,071	基準年度	H30	目標値	22,871	R5	モニタリング	22,780	評価値	△	1年以内の達成見込み	あり	守山南中学校区の人口増加への対応として、当該校区の地域防災施設の整備を実施し、また、守山南中学校の屋内運動場と給食室を整備することにより、良好な教育環境に寄与することができたものの、目標値の達成には至らなかった。	令和7年10月頃	
			目標年度	R5					なし	●								
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	モニタリング	評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期							
4)定性的な効果発現状況	その他の数値指標1																	
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等											
	モニタリング	事業成果に関して、「もーりーカー運行実績」「スーパー学割バス定期券販売実績」を毎月1回、「路線バス利用者実績」を毎年1回把握	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● これまで同様の活動を継続的に実施していく											
	住民参加プロセス	アンケート、満足度調査、市民懇談会の実施によって、住民意向を把握	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● これまで同様の活動を継続的に実施しながら事業に反映させていく											
持続的なまちづくり体制の構築	協議会を構築し、年2～3回程度開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 継続的に協議会を開催し、事業実施のあり方等を検討していく												

様式2-2 地区の概要



まちの課題の変化

- ・リハビリテーションセンターおよび回復期リハビリテーション病棟を有する新館の建設により、回復期医療の拠点施設としての役割を果たすことができたことに加え、道路や公共交通等の整備によってアクセス性が向上した。
- ・庁舎建替えにあわせて地域交流センターや広場など気軽に集える空間が一体的に整備されたことによってまちのにぎわい拠点が創出されるとともに、道路整備や中山道の街並み整備等によって回遊しやすくなる環境が向上した。
- ・市道岡立入線(立入地区)は、当該地区における区画整理の区間を縦断する主道路であることから、区画整理と一体で整備することにより、計画的な市街地の形成や周辺区画へのアクセス機能の向上等の良好な住環境の創出を実現した。
- ・多様な都市再生整備計画事業の実施によって、まちの「利便性」「安らぎ」「うらおい」等が向上した。
- ・新庁舎整備に伴い利用者が増加したことによって駐車場の混雑が見られるため、適切な駐車場管理によって施設の利便性を阻害しないよう留意する必要がある。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

- ・来院者のニーズを把握する中、これまで推進してきたオンライン資格確認等に引き続き、DXの推進を図る。
- ・施設のさらなる機能向上や適切な維持管理を行うことにより、魅力ある良好な市街地環境の維持・充実を図る。
- ・関係機関等との調整における課題解決に引き続き取り組む。
- ・第3期都市再生整備計画事業を実施していく中で評価、検討、改善を進めていく。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—	—	—
B. 目標を定量化する指標	●		—	「居住人口の増加」を追加	地域防災施設や教育文化施設の整備事業を計画に追加したことにより、当額施設を含むエリアの人口が指標として必要であると判断したため
C. 目標値	●		歩行者・自転車通行量 16,400人/日	歩行者・自転車通行量 17,220人/日	事業の追加や目標年度の延長によって効果発現結果が高まるものと考えられるため
D. その他(区域面積、事業期間)	●		平成30年度～令和4年度	平成30年度～令和5年度	事業の遅延・延期のため

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道岡立入線(立入地区)	150	L=180m	97	—	精算の結果に伴う金額のみの変更	影響なし	●	
道路	市道駅前泉町線	50	L=150m	33	—	精算の結果に伴う金額のみの変更	影響なし	●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	守山駅前広場	78	290㎡	—	—	事業の削除	指標2の歩行者・自転車通行量に影響があるため、数値目標を変更	●	
地域生活基盤施設	地域防災施設	—	—	63	700㎡	目標達成に寄与する事業の実施準備が整った事による追加	指標2の歩行者・自転車通行量に影響があるため、数値目標を変更	●	
地域生活基盤施設	森の街道広場	—	—	44	788㎡	目標達成に寄与する事業の実施準備が整った事による追加	指標2の歩行者・自転車通行量に影響があるため、数値目標を変更	●	
高質空間形成施設	吉身川	23	180m	—	—	事業の削除	指標2の歩行者・自転車通行量に影響があるため、数値目標を変更	●	
高次都市施設	地域交流センター(「つなぐ、守の舎」街道広場)	—	—	287	706㎡	目標達成に寄与する事業の実施準備が整った事による追加	指標2の歩行者・自転車通行量に影響があるため、数値目標を変更	●	
誘導施設	守山市民病院	1,520	3,900㎡	1,520	3,900㎡	—	—	●	
誘導施設	守山南中学校	—	—	720	1,458㎡	目標達成に寄与する事業の実施準備が整った事による追加	指標2の歩行者・自転車通行量に影響があるため、数値目標を変更	●	
土地区画整理事業(都市再生)									
市街地再開発事業									
住宅街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業	中山道の街並み整備事業	15	一式	5	一式	精算の結果に伴う金額のみの変更	影響なし	●	
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業									
事業活用調査	交通量調査	—	—	4	一式	目標達成に寄与する事業の実施準備が整った事による追加	指標2の歩行者・自転車通行量に影響があるため、数値目標を変更	●	
	守山駅西口ローター利用促進・活用調査	—	—	3	一式	目標達成に寄与する事業の実施準備が整った事による追加	指標2の歩行者・自転車通行量に影響があるため、数値目標を変更	●	
まちづくり活動推進事業	乗合デマンドタクシー社会実験	—	—	55	一式	目標達成に寄与する事業の実施準備が整った事による追加	指標2の歩行者・自転車通行量に影響があるため、数値目標を変更	●	
	モビリティ・マネジメント社会実験	—	—	33	一式	目標達成に寄与する事業の実施準備が整った事による追加	指標2の歩行者・自転車通行量に影響があるため、数値目標を変更	●	
	路線バスのアクセス強化社会実験	—	—	15	一式	目標達成に寄与する事業の実施準備が整った事による追加	指標2の歩行者・自転車通行量に影響があるため、数値目標を変更	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
市街地再開発事業		守山銀座ビル地区	—	3,911	—	H27～R1	完成	
土地区画整理事業		立入地区	—	898	—	H28～R4	完成	
通学路安全対策事業(防災・安全)		市道岡立入線	—	578	—	H27～R4	完成	
都市再生整備計画事業と一体の効果促進事業		交通量調査	—	7	—	H30～R4	完成	
守山南中学校拡張整備事業		守山南中学校	—	3,718	—	H28～R3	完成	
新庁舎整備事業		守山市役所	—	6,000	—	R1～R5	完成	
守山駅西口賑わい広場整備事業		守山駅西口	—	6	—	R5～R5	完成	
守山駅西口歩行者空間整備事業		守山駅西口	—	18	—	R5～R5	完成	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度		基準 年度		目標 年度		モニタリング	事後評価	数値	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	病院外来患者数	人/年	令和5年度の守山市民病院の外来患者数を計測し、評価値とする	-	-	7,426	H28	12,615	R5	モニタリング		モニタリング				●
										事後評価	確定 ● 見込み	8,463	事後評価	△		
指標2	歩行者・自転車通行量	人/日	区域内5ポイントの平日1日(午前8時～午後8時)の歩行者・自転車通行量を計測し、評価値とする	-	-	12,196	H28	17,220	R5	モニタリング		モニタリング				●
										事後評価	確定 ● 見込み	14,619	事後評価	△		
指標3	立入地区の世帯数	世帯	市が把握する統計データから対象分を抽出し、評価値とする	-	-	1	H28	67	R5	モニタリング		モニタリング			-	-
										事後評価	確定 ● 見込み	70	事後評価	○		
指標4	居住人口の増加	人	市が把握する統計データから対象分を抽出し、評価値とする	-	-	22,071	H30	22,871	R5	モニタリング		モニタリング				●
										事後評価	確定 ● 見込み	22,780	事後評価	△		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	外的要因が主要因となって目標値を達成することは出来なかったものの、計画策定時の従前値は上回っており、利便性やアクセス性が高まったことによって入院患者数は増加している	-
指標2	目標値を達成することは出来なかったものの、様々な事業の実施によって区域内の回遊性が高まったため、計画策定時の従前値は上回っている	-
指標3	土地区画整理事業の実施によって、利便性の高い一団の住宅地が形成されたことを受けて、順調に世帯数が増加し目標値を上回っている	-
指標4	守山南中学校の整備事業による教育環境の向上等により、計画策定時の従前値よりは増加したものの目標値には届いていない	-

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度			
その他の数値指標1	—	—					モニタリング	—	—
							事後評価		
その他の数値指標2	—	—					モニタリング	—	—
							事後評価		
その他の数値指標3	—	—					モニタリング	—	—
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・市役所の新庁舎整備に合わせて地域交流センターや森の街道広場を一体的に整備する事で、市役所が市民に親しみやすく集いやすい場所となり、拠点性が高まった
- ・中山道の街並み整備とシンボルロードに面する銀座ビルの再開発を行ったことにより、近代的な街並みと古き良き街並みが近接して体感できる環境が整い、相乗効果を挙げている
- ・市民病院の機能向上により、地区内の来訪者が増加している

(2) 実施過程の評価

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
乗合デマンドタクシー社会実験 モビリティマネジメント社会実験 ※スーパー学割バス定期券	予定どおり実施した	【実施頻度】毎月1回 【実施時期】毎月末 【実施内容】 「もーりーカー」の運行事業者より、毎月末運行実績を報告してもらうことにより、市民の病院等の誘導施設への移動状況を把握することができた。 「スーパー学割バス定期券」販売委託業者より、毎月末販売実績を報告してもらうことにより、学生の駅周辺エリアへの移動状況を把握することができた。	モニタリング同様に毎月末の実績報告により、移動状況を確認する。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった (理由)		
路線バスのアクセス強化社会実験 ※フィーダー協調補助	予定どおり実施した	【実施頻度】毎年度1回 【実施時期】毎年度10月頃 【実施結果】 守山市統計書で毎年度数値(市内全体のバス利用者数)が公開されているため、実施した社会実験(路線再編)の効果を一定測ることができた。	モニタリング同様に毎年度の本市統計書により確認する。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
森の街道広場整備事業 地域交流センター整備事業	予定どおり実施した	【実施頻度】計1回 【実施時期】令和2年度 【実施結果】 施設をどのように使いたいかの意見を市民に募集し、その結果を整備に反映させた。その結果、にぎわいの創出やまちの回遊性の向上を図ることができた。	今後も利用者の意見を取り入れながら運用面での改善を図る。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった (理由)		
守山市民病院整備事業	予定どおり実施した	利用者の意見を病院運営に反映するための患者満足度調査の実施 【実施頻度】年1回(8月頃) 【実施結果】 日常の病院運営について、利用者(外来患者および入院患者)の意見を聞くことで、より良いサービスの提供に努めた。	アンケート結果に基づき、適宜、利用者(外来患者および入院患者)のニーズを踏まえた改善を図っていく予定。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった (理由)		
守山駅西口ローター利用促進・活用調査	予定どおり実施した	【実施頻度】計1回 【実施時期】令和5年9月 【実施結果】守山駅東口再整備基本計画策定業務の一環で、西口の各機能(緑地公園、駐車場、乗降場所など)の必要性について、アンケート調査を実施した。	アンケート結果を踏まえ、住民が減らしてもよいと考えている機能のあり方を検討するなか、より良い効果的な西口駅前広場の実現に向け検討を図る。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった (理由)		

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
乗合デマンドタクシー社会実験	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した ●</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>【実施頻度】計2回</p> <p>【実施時期】R5.2～3月</p> <p>【実施結果】</p> <p>「もーりーカー」の未登録者および登録者に対し、アンケートを実施した。それにより、課題や利用者の要望等を把握することができ、制度設計を検討するための判断材料とすることができた。</p>	アンケート結果を踏まえながら市民ニーズに即した乗合デマンドタクシーの運行を実施していく。
モビリティマネジメント社会実験 ※スーパー学割バス定期券 路線バスのアクセス強化社会実験 ※フィーダー協調補助	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した ●</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>【実施頻度】計1回</p> <p>【実施時期】R5.3月</p> <p>【実施結果】</p> <p>「地域公共交通について」をテーマに市民懇談会(参加者21名)を実施した。交通に関する多角的なテーマで参加者に議論してもらい、公共交通の維持・充実のために何ができるのかを提案してもらった。この取組により、市民のバスを含む公共交通に対する興味・関心につなげることができた。</p>	2024年問題を契機に地域公共交通の転換期にあるため、今後も継続的に市の公共交通のあり方を考える機会を設ける。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
守山市民病院整備事業	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した ●</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	平成30年4月1日に指定管理者制度(利用料金制)を導入し、社会福祉法人恩賜財団滋賀県済生会を指定管理者として、公立病院として急性期から慢性期までの機能を維持しつつ、回復期医療の拠点病院として、より専門的で質の高い診療を行っている。	社会福祉法人恩賜財団滋賀県済生会	より専門的で質の高い診療を行っていく。
乗合デマンドタクシー社会実験 モビリティマネジメント社会実験 ※スーパー学割バス定期券 路線バスのアクセス強化社会実験 ※フィーダー協調補助	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した ●</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	年2～3回程度、地域公共交通に関する市や民間の事業について協議する会議を定期的開催し、地域の代表(各学区長や市民団体の長等)からの意見集約をすることにより、市の地域公共交通のあり方を継続的に議論している。	守山市地域公共交通活性化協議会	本会議において、継続的に市の地域公共交通のあり方を検討していく。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会(書面開催)	道路河川課、都市計画・交通政策課、教育総務課、庁舎整備推進室、地域医療政策室	令和6年12月～令和7年1月	都市計画・交通政策課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3					
指標名		立入地区の世帯数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(市道岡立入線(立入地区))	◎	立入地区の土地区画整理事業や道路事業等による基盤整備によって新たな居住地が創出されるとともに、新庁舎整備や地域交流センター、森の街道広場整備等によって魅力的な拠点施設が出来たこと、まちの顔となる守山駅西口整備や守山銀座ビルの再開発等によって生活の場としての魅力が高まったことから、目標値を達成することが出来た。				
	道路(市道駅前泉町線)	○					
	地域生活基盤施設(地域防災施設)	○					
	地域生活基盤施設(森の街道広場)	○					
	高次都市施設(地域交流センター(「つなぐ、守の舎」街道広場))	○					
	誘導施設(守山市民病院)	○					
	誘導施設(守山南中学校)	○					
	街なみ環境整備事業(中山道の街並み整備事業)	○					
提案事業	事業活用調査(交通量調査)	—					
	事業活用調査(守山駅西ロータリー利用促進・活用調査)	○					
	まちづくり活動推進事業(乗合デマンドタクシー社会実験)	○					
	まちづくり活動推進事業(モビリティ・マネジメント社会実験)	○					
	まちづくり活動推進事業(路線バスのアクセス強化社会実験)	○					
関連事業	市街地再開発事業(守山銀座ビル地区)	○					
	土地区画整理事業(立入地区)	◎					
	通学路安全対策事業(市道岡立入線)	◎					
	都市再生整備計画事業と一体の効果促進事業(交通量調査)	—					
	守山南中学校拡張整備事業	○					
	新庁舎整備事業	○					
	守山駅西口賑わい広場整備事業	○					
守山駅西口歩行者空間整備事業	○						

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	・住宅地としての魅力が低下しないようコミュニティの形成・維持を図るとともに、居住環境の保全を働きかけていく。
-------	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標4		
指標名		病院外来患者数			歩行者・自転車通行量			居住人口の増加		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(市道岡立入線(立入地区))	—	守山市民病院や守山駅西口周辺の整備によって病院の利便性やアクセス性が高まったものの、診療報酬改定に伴ってH31年4月より維持期・生活期のリハビリテーションが医療保険から介護保険へ完全移行されたことによる影響が大きいと考えるため、目標値の達成には至らなかった。しかしながら、入院患者数は増加しており、これは来院者の利便性やアクセス性の向上が実現されたことによるものと考えられる。		市道駅前泉町線のバリアフリー化整備や守山駅西口歩行者空間整備事業の実施により安全・安心に歩ける環境が向上するとともに、中山道の街並み整備事業等による歩いてみたくなる環境づくり及び歩行者の回遊性向上が実現しまちの活性化に繋がったものの、目標値の達成には至らなかった。	△		守山南中学校区の人口増加への対応として、当該校区の地域防災施設の整備を実施し、また、守山南中学校の屋内運動場と給食室を整備することにより、良好な教育環境に寄与することができたものの、目標値の達成には至らなかった。		
	道路(市道駅前泉町線)	—			△					
	地域生活基盤施設(地域防災施設)	—			△					
	地域生活基盤施設(森の街道広場)	—			△					
	高次都市施設(地域交流センター)	—			△					
	誘導施設(守山市民病院)	△			△					
	誘導施設(守山南中学校)	—			△					
	街なみ環境整備事業(中山道の街並み整備事業)	—			△					
提案事業	事業活用調査(交通量調査)	—			—					
	事業活用調査(守山駅西ロータリー利用促進・活用調査)	△			△					
	まちづくり活動推進事業(乗合デマンドタクシー社会実験)	△			△					
	まちづくり活動推進事業(モビリティ・マネジメント社会実験)	△			△					
	まちづくり活動推進事業(路線バスのアクセス強化社会実験)	△			△					
関連事業	市街地再開発事業(守山銀座ビル地区)	—			△					
	土地区画整理事業(立入地区)	—			△					
	通学路安全対策事業(市道岡立入線)	—			△					
	都市再生整備計画事業と一体の効果促進事業(交通量調査)	—			—					
	守山南中学校拡張整備事業	—			△					
	新庁舎整備事業	—			△					
	守山駅西口賑わい広場整備事業	△			△					
	守山駅西口歩行者空間整備事業	△			△					

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>・目標設定の前提条件が変更となったため、目標値を達成することは出来なかったが、入院患者数は増加しており、事業内容の改善等は特に必要無いものと考えられる。ただし、フォローアップを行う際には適切な指標・数値目標を設定したうえで事業効果を確認するべきと考えられる。</p>	<p>・歩行者・自転車通行量については、天気や気温等にも左右されるため、フォローアップを実施した結果も踏まえながら改善すべき点を検討すべきと考えられる。</p>	<p>・エリア別の居住人口や自然増減・社会増減の状況を確認のうえ、目標を達成できなかった要因を把握し、必要と考えられる取り組みを継続的に進めていくべきである。</p>
------------------	--	--	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会(書面開催)	道路河川課、都市計画・交通政策課、教育総務課、庁舎整備推進室、地域医療政策室	令和6年12月～令和7年1月	都市計画・交通政策課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
今後の高齢化に備え、社会や医療情勢の変化に柔軟に対応することができる施設整備が求められていることから、現在不足している回復期病床を増設し、より一層の医療体制の充実を図る必要がある	・リハビリテーションセンターおよび回復期リハビリテーション病棟を有する新館の建設により、回復期医療の拠点施設としての役割を果たすことができたことに加え、道路や公共交通等の整備によってアクセス性が向上した。	・患者サービスの向上に向けた取組として、今後、さらなるDXの推進等により、より一層の医療体制の充実を図ることが望まれる。	・特になし
駅周辺での中高層マンション等の開発が進む中で、にぎわいの創出や回遊性の向上を図り、本市の中心市街地にふさわしい魅力ある良好な市街地環境の形成が求められている	・庁舎建替えにあわせて地域交流センター(「つなぐ、守の舎」街道広場)や広場など気軽に集える空間が一体的に整備されたことによってまちのにぎわい拠点が創出されるとともに、道路整備や中山道の街並み整備等によって回遊したくなる環境が向上した。	・住民のニーズも踏まえながら、更に生活に必要な機能の充実を目指していくことが望まれる。	・新庁舎整備に伴い利用者が増加したことによって駐車場の混雑が見られるため、適切な駐車場管理によって施設の利便性を阻害しないよう留意する必要がある。
現在組合施行で進められている土地区画整理事業の早期完了に向けて、市としても地区内の公共施設の整備を進める必要がある	・市道岡立入線(立入地区)は、当該地区における区画整理の区間を縦断する主道路であることから、区画整理と一体で整備することにより、計画的な市街地の形成や周辺区画へのアクセス機能の向上等の良好な住環境の創出を実現した。	・岡立入線(岡地区)の整備事業についても取り組んでいるものの、関係機関等との調整が難航していることにより、今日まで整備に至っていない状況にある。	・特になし
人口増加が続くうえで、「利便性」「安らぎ」「うるおい」を持ちかつ、地域の特性を生かした総合的なまちづくりが必要である	・多様な都市再生整備計画事業の実施によって、まちの「利便性」「安らぎ」「うるおい」等が向上した。	・より地域特性を生かした生活利便性の高いまちの環境向上に向けて、地域住民を巻き込んだ活用の強化が望まれる。	・特になし

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	・回復期医療の拠点施設としての役割および病院へのアクセス性向上	・来院者のニーズを把握する中、病院施設や公共交通等の整備、機能向上を図っていく	・道路や病院施設等の整備、バリアフリー化 ・公共交通の利便性向上に向けた意向調査、環境整備、運用改善等
	・庁舎と一体的に整備された地域交流センターや広場の利便性向上や活用促進	・誰もが使いやすい施設となるよう、利用方法や利用事例等をPRしていく	・PR活動(HPや広報、チラシ等の活用)
	・周辺区画へのアクセス機能の向上等の良好な住環境の創出	・整備した市道の適切な維持管理	・道路修繕事業(地元からの要望や定期的な道路状況の調査に基づく)
	・市民ニーズを反映したまちの環境の保全・向上	・定期的に市民・地域住民のニーズを把握しながら、必要性の高い整備を継続的に実施していく	・歴史・景観・街並保存事業 ・市民や民間事業者と協働した公共空間や水辺空間の活用及び維持管理

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	・DXの推進等による、より一層の医療体制の充実	・来院者のニーズを把握する中、これまで推進してきたオンライン資格確認等に引き続き、DXの推進を図る。	・オンライン診療 ・オンライン面会
	・中心市街地にふさわしい、より魅力ある良好な市街地環境の形成	・施設のさらなる機能向上や適切な維持管理を行うことにより、魅力ある良好な市街地環境の維持・充実に努める。	・新庁舎におけるイベントの実施 ・アンケート等による利用者の意見聴取
	・未整備である岡立入線(岡地区)の整備	・関係機関等との調整における課題解決に引き続き取り組む。	・道路整備事業(岡立入線(岡地区))
	・総合的なまちの環境を定期的に評価・検討する仕組みの構築・強化	・第3期都市再生整備計画事業を実施していく中で評価、検討、改善を進めていく	・市民懇談会 ・パブリックコメント ・地域行政懇話会

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

✓	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
✓	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
✓	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
✓	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
✓	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

.

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	病院外来患者数	人/年	7,426	H28	12,615.0	R5	確定 ●	8,463.0	△	あり -	→	令和7年10月頃	令和6年度の守山市民病院の外来患者数及び入院患者数を計測し、令和元年度以降の推移を確認する	—
							見込み			なし ●				
指標2	歩行者・自転車通行量	人/日	12,196	H28	17,220	R5	確定 ●	14,619	△	あり	→	令和7年10月頃	区域内5ポイントの平日1日(午前8時～午後8時)の歩行者・自転車通行量を計測し、評価値とする	—
							見込み			なし ●				
指標3	立入地区の世帯数	世帯	1	H28	67	R5	確定 ●	70	○	あり -	→	—	—	—
							見込み			なし -				
指標4	居住人口の増加	人	22,071	H30	22,871	R5	確定 ●	22,780	△	あり	→	令和7年10月頃	市が把握する統計データから対象分を抽出し、評価値とする	—
							見込み			なし ●				
その他の数値指標1	—	—	—	—	—	—	確定	—	—	—	→	—	—	—
							見込み			—				
その他の数値指標2	—	—	—	—	—	—	確定	—	—	—	→	—	—	—
							見込み			—				

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	—	・事業実施による影響以外に、指標に影響を及ぼす動向や社会情勢の変化を十分に予測して設定することが重要である
	うまくいかなかった点	・数値目標「病院外来患者数」については、医療・介護保険関連制度の改定によって、数値目標が現実的ではない水準となった	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・社会実験やアンケート調査等によって、市民・住民・利用者等のニーズを把握した上で取り組みを進めていくことが効果的である	・事業の実施効果をより高めるためにも、提案事業を積極的に実施することが効果的である
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・本地区において、第3期都市再生整備計画(都市構造再編集集中支援事業)により交付金を活用。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	守山市ホームページに掲載	令和7年1月27日～2月7日	令和7年1月27日～2月7日	下記の方法にて 都市計画・交通政策課 に提出 ・郵送 ・FAX ・メール	都市計画・交通政策課
広報掲載・回覧・個別配布	-	-	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	-	-	-		

住民の意見	・特になし				
-------	-------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	立命館大学理工学部 塩見教授	令和7年2月20日	都市計画・交通政策課	—	—
その他の委員	守山商工会議所 大崎会頭				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・病院外来患者数を増やす目標設定については、その意図について理解を深めておくべきとの意見があり、委員会において確認した。 ・歩行者・自転車通行量については、歩行者を増やす事と自転車を増やす事とは別の事なので、今後は別々に考えるべきという意見があった。 ・居住人口の増加については、一定の学校区を対象としているため、その意図について理解を深めておくべきとの意見があり、委員会において確認した。
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・特になし
	事後評価原案の公表の妥当性	・特になし
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当に進められたと認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・各指標の評価やそれに基づく今後のまちづくり方針については、今回取りまとめたもので良いが、総合的に勘案して守山市全体がどういう方向に向かっているのかについても検討していくことが大切であるとの意見があった。 ・費用対効果や事業間の相乗効果等も念頭に置きながら、まちづくり事業を進めていくことが大切であるとの意見があった。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。